

主体的な学びを育むために

本校では、児童の主体的な学びを促進し、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力を、**学習の基盤となる力**・**学びを深める力**・**自己有用感の育成**としています。



- ・ **学習の基盤となる力**
- ・ **学びを深める力**
- ・ **自己有用感の育成**

（学習の基盤となる力）

学習規律の定着や学びに向かう力を始めとし、学習課題・問題に対して粘り強く取り組む力や自分の考えを持ち、相手に理解してもらえるよう工夫しながら表現する力、また情報活用能力等の力の育成を目指しています。

（学びを深める力）

自分の考えを友達に伝えることにより理解や学びは一層深まります。友達と自分の考えを比べる力やより良い解決方法を考えたり選択したりしながら自分の意志で決定する力、学びを生活に生かす力の育成を目指しています。

（自己有用感の育成）

自己を認識し、自分自身を理解することは自己有用感の向上につながります。そのために他人を思いやり認め合える力、特に授業での共感的な人間関係づくりや授業の終末で分かったこと等を振り返ることを通した自己存在感の育成等の生徒指導の三機能を取り入れた授業づくりに取り組むことを通して、児童の自己有用感の育成を目指します。

これら三つの資質・能力の育成をとおして、児童一人一人が自分の考えをしっかりと持ち、その考えを大切にするとともに、先生や友達に心を開いて何でも話すことができ、相談することができる雰囲気づくりも各学級等で進めていきます。

具体的な方策

〈主体的な学びを促す授業改善〉

一時間の授業の中で子供たちに学習の見通しを持たせるための学習活動を工夫したり、授業の終末に、個々の児童が一時間の授業の中で何を学んだか、何ができるようになったかなどを自分自身で振り返ったりすることを重視した授業づくりに重点を置き、全教員による授業研究等を通じた授業改善に取り組んでいます。



主体的な学びを促すために・・・

- ・体験的活動を伴ったパフォーマンス課題の設定
- ・自分の考えをノートに書き、自信をもって発表する力の育成

〈言語スキルの獲得〉

本年度は、本校で言語活動の充実をめざしています。そこで、「学びの手引き」を作成し、各学年の発達段階に応じた話型を身に付けさせることを目標としています。そこから、発展し、思考力・判断力を高める手段として言語スキルの定着を図るために、授業だけでなく、日々の学校生活で意図的・計画的に取り組んでいます。

<p>・じゅんじょよく、「まず・つぎに・そして・さいごに」 ・「どうですか？」でといかける。</p>	<p>「ききたいこと」 ・もう一かい、言ってください。 ・どうしてですか。 ・どこから、そう考えましたか。</p>	<p>「同じです」 ・わたしも○○さんと同じで・・・だと 思います。 ・それは、・・・だからです。</p>	<p>「ちがいます」 ・わたしは○○さんとちがって・・・だと 思います。 ・それは、・・・だからです。</p>	<p>「くらべる」 ・○○と△△は・・・のなかまになると 思います。 ・○○は△△とちがって・・・のなかまに 入ると思います。</p>	<p>「学びの手引き」(二年)</p> <p>はい。わたしは、○○だとおもいます。 そのわけは・・・</p>
--	---	---	---	---	--

